

◇英語史 MA（開講単位数:2単位）

担当者:真野 一雄

充当科目コード : N30300

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 英語の外面史, すなわち英語と英国社会との関わり, 英国の歴史が英語にどのような影響を与えたか, そして英語がどう変化していったかをテキスト (英文) を読みながら概観します。

◆**学修到達目標** 英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか, 歴史的な流れの基礎的な知識を修得することができるようになる。過去の歴史を振り返り, 英語の未来の姿を想像することができるようになる。

◆**授業方法** メディアを利用して聴講, 課題 (理解度チェック 1, 2 + 最終試験) を提出する。

◆授業計画

1 回	授業内容	第1章 インド・ヨーロッパ語族(1)
	事前学修	英語の世界的な広がりを考えてみる。
	事後学修	インド・ヨーロッパ語族とは何か, 理解しておく。
2 回	授業内容	第2章 インド・ヨーロッパ語族(2)
	事前学修	どのような言語がインド・ヨーロッパ語族に属するか, 考える。
	事後学修	インド・ヨーロッパ語族にはどのような言語が属するか, 理解しておく。
3 回	授業内容	第3章 ゲルマン語派(1)
	事前学修	ゲルマン語の特徴とは, 何か, 考える。
	事後学修	ゲルマン語の特徴とは, 何か, 確認する。
4 回	授業内容	第4章 ゲルマン語派(2)
	事前学修	どのような言語がゲルマン語派に属するか, 考える。
	事後学修	英語の系統的な位置づけをする。
5 回	授業内容	第5章 古英語(1)
	事前学修	古英語時代は, どのような時代であったか, 考えてみる。
	事後学修	古英語時代は, どのような時代であったか, 確認する。
6 回	授業内容	第6章 古英語(2)
	事前学修	古英語とは, どのような言語か, 想像してみる。
	事後学修	古英語と近代英語を比較して, 古英語の特徴を確認する。
7 回	授業内容	第7章 古英語(3) + 理解度チェック1
	事前学修	キリスト教は英語にどのような影響を与えたか, 想像してみる。
	事後学修	古英語時代の借用語を確認する。
8 回	授業内容	第8章 中英語(1)
	事前学修	ノルマン人の征服とは何か, 調べてみる。
	事後学修	ノルマン人の征服が英語に与えた影響を確認する。
9 回	授業内容	第9章 中英語(2)
	事前学修	中英語時代とは, どのような時代であったか, 考えてみる。
	事後学修	中英語の特徴を確認する。
10 回	授業内容	第10章 近代英語(1) 一時代区分, その背景
	事前学修	近代英語とは, どのような時代であったか, 考えてみる。
	事後学修	近代英語の特徴を確認する。
11 回	授業内容	第11章 近代英語(2) 一ModE の特徴
	事前学修	大母音推移とは何か, 考えてみる。
	事後学修	標準英語がどのように成立したか, 確認する。
12 回	授業内容	第12章 近代英語 一借用語, アメリカ英語など+ 理解度チェック2, 試験
	事前学修	英語がどのように世界へ広まっていったか, 考えてみる。
	事後学修	近代英語期の借用語にはどのような特徴があるか, 確認する。

◆**教科書 教材** 『英語史 0441』 通信教育部教材 (教材コード 000117)

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『英語の歴史—過去から未来への物語』 寺澤 盾著 中公新書 1971

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『英語の歴史』 中尾俊夫著 講談社現代新書958

◆**成績評価基準** 2 回の理解度チェック及び最終試験の提出を条件に, その 2 回の理解度チェック及び最終試験に受講 (視聴) 回数を加味して評価する。

◇英語音声学 MA（開講単位数:2単位）

担当者:中村 光宏

充当科目コード：N30600

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆**授業概要** 英語音声の分節的特徴（母音、子音、音節）について、日本語音声と比較しながら授業を進めます。音声言語を観察・分析・記述する枠組みと、英語の標準発音の特徴について、実践的・探索的に理解を深めます。英語と日本語の言語としての特徴を探り、音声言語の観点から、英語らしさ・日本語らしさについての考えを発展させます。そして、受講者各自の英語発音や日本語発音について、内省・観察するための基礎づくりを進めます。

◆**学修到達目標** 本講義の目標は次の2つに大別されます。ひとつは、話しことばとしての英語の主要な特徴を説明することができ、人間の音声コミュニケーションについて理解と考察を進めることができるようになることです。もうひとつの目標は、音声学的視点を持ち、英語音声を実感的に運用することができるようになることです。

◆**授業方法** 受講者各自が、メディア授業の受講と理解度チェックを計画的に進めることが中心となります。「授業計画」で学修期間を確認し、自身の計画を入念に立ててください。授業各回にある事前学習の「問い」について、自分自身の考えや観察をまとめた上で受講し、事後学修を行ってください。学習時には「講義用ディスカッションボード」を必ず閲覧するとともに、受講者間での意見交換にも積極的に利用することを強く勧めます。

◆授業計画

1回	授業内容	話しことばの科学 コミュニケーションにおける「ことば」を見直し、音声言語の特徴について考察します。
	事前学修	問：言語音声はどのような情報を相手に伝達しているか？
	事後学修	第1章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
2回	授業内容	ことばを生み出す身体器官 言語音声を作り出す身体器官の働きについて概説します。
	事前学修	問：「ロボットのように話してください」と言われたら、あなたは何をどのように調整して話しますか？
	事後学修	第2章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
3回	授業内容	音声記述の枠組み (1): 日本語子音の調音と国際音声字母(IPA) 子音を記述する枠組みを解説し、日本語子音の調音運動を記述・考察します。
	事前学修	問：五十音図におけるサ行の「さ」と「し」の子音は同じか、それとも異なるか？
	事後学修	第3章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
4回	授業内容	音声記述の枠組み (2): 基本母音と日本語母音の調音 母音を記述する枠組み解説し日本語の母音の調音運動を記述・考察します。
	事前学修	問：五十音図の「あ」と「い」の発音では、顎の位置に違いはあるか？
	事後学修	第4章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
5回	授業内容	音韻論の基本概念 (1): 音素と異音 音声の言語学的段階である音韻論の基本概念について解説します。
	事前学修	問：五十音図におけるハ行の子音は全て同じだろうか？
	事後学修	第5章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。そして、ここまでの講義内容に関する理解を確認するために、理解度チェック(1)を解答してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
6回	授業内容	英語の母音 英語発音の標準音型と英語母音の特徴について概説します。
	事前学修	第4回における「母音記述の音声学的枠組み」、「基本母音」、「日本語母音の記述」を確認してください。
	事後学修	第6章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
7回	授業内容	英語の子音 英語子音の特徴について概説します。
	事前学修	第3回における「子音記述の音声学的枠組み」と「日本語子音の記述」を確認してください。
	事後学修	第7章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
8回	授業内容	音節 英語の単語に含まれる様々な分節音の連続を観察して、英語音節の特徴を探ります。
	事前学修	問：英語発音の「quick」と日本語発音の「クイック」はどのように異なるか？
	事後学修	第8章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。そして、ここまでの講義内容に関する理解を確認するために、理解度チェック(2)を解答してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
9回	授業内容	英語音声の観察と発音練習 (1) 英語母音の観察、発音、そして聴き取りの練習をします。
	事前学修	第6章の英語母音の特徴を確認してください。
	事後学修	自分自身の発音を注意深く観察・分析し、その特徴をまとめておきましょう。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
10回	授業内容	英語音声の観察と発音練習 (2) 英語子音の観察、発音、そして聴き取りの練習をします。
	事前学修	第7章の英語子音の特徴を確認してください。
	事後学修	自分自身の発音を注意深く観察・分析し、その特徴をまとめておきましょう。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
11回	授業内容	音韻論の基本概念 (2): 英語の異音規則 「音素と異音」という観点を英語音声に適用して、代表的な音声的特徴の変化を異音規則として記述します。
	事前学修	問：「team」と「meat」の「t」の発音はどのように異なるか？
	事後学修	第11章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
12回	授業内容	日英語の音声・音韻体系と音声転移 英語と日本語における分節音の特徴を、第2言語の音声獲得という観点から考えます。
	事前学修	問：なまった英語発音 (e.g. 日本語っぽい英語発音) は、なぜ起こるか？
	事後学修	第12章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)** メディア授業「英語音声学MA」の各章に明記しています。

◆**成績評価基準** 最終レポート試験を中心として、メディア授業受講状況と理解度チェック（受験結果）、そして「講義用ディスカッションボード」への参加状況を加味して、総合的に評価します。

◇英語学概説 MA（開講単位数:2単位）

担当者:山岡 洋

充当科目コード：N30700

配 当 学 科：全学科・専攻

配 当 学 年：2 学年以上

◆**授業概要** 言語学の一分野としての英語学が、どのような学問分野であるか、その全体像を理解する。具体的には、英語学という学問の存在意義やその下位分類としてどのような学問分野が存在するのか、そしてそれぞれの学問分野は概略どのような内容であるのかを、概略で説明する。この講座では、中でも、音と意味に関する学問分野を紹介していく。

◆**学修到達目標** 言語学の一分野としての英語学が、どのような学問分野であるか、その全体像を理解する。具体的には、英語学という学問の存在意義やその下位分類としてどのような学問分野が存在するのか、そしてそれぞれの学問分野はどのような内容であるのかを、概略で説明する。この講座では、中でも、音と意味に関する学問分野を紹介していく。英語学の全体像を理解することにより、英語教員として身に着けておくべき英語に関する基礎的な知識を身に付け、国際語としての英語をいかに学習者に伝えるかを幅広く考えられるようになる。

◆**授業方法** 基本的には、インターネット上の教材を視聴しながら授業を受けていく。その際に、インターネット上の教材だけでは理解不十分の箇所に関しては参考書を必要に応じて参照する。各章ごとに、「自己点検」が設けられているので、その都度理解度を確認し、また数章ごとに「理解度チェック」が計 4 回設けられているので、そこでも改めて理解度を確認する。最後に「最終試験」が設けられている。

◆授業計画

	授 業 内 容	英語学とは -言語学の中の英語学-
1 回	事前学修	参考図書の「ことばの知識」や「言語学の諸分野」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「ことばの知識」や「言語学の諸分野」に関する箇所を見ながら再確認する。
2 回	授 業 内 容	音の研究 -音声学と音韻論-
	事前学修	参考図書の「音声学と音韻論」に関する箇所を読んでおく。
3 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「音声学と音韻論」に関する箇所を見ながら再確認する。
	授 業 内 容	調音
4 回	事前学修	参考図書の「調音」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「調音」に関する箇所を見ながら再確認する。
5 回	授 業 内 容	母音と子音
	事前学修	参考図書の「母音と子音」に関する箇所を読んでおく。
6 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「母音と子音」に関する箇所を見ながら再確認する。
	授 業 内 容	音素・音声素性
7 回	事前学修	参考図書の「音素」「音声素性」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「音素」「音声素性」に関する箇所を見ながら再確認する。
8 回	授 業 内 容	音節
	事前学修	参考図書の「音節」に関する箇所を読んでおく。
9 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「音節」に関する箇所を見ながら再確認する。
	授 業 内 容	アクセント・語アクセント
10 回	事前学修	参考図書の「アクセント」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「アクセント」に関する箇所を見ながら再確認する。
11 回	授 業 内 容	句アクセント・リズム・イントネーション
	事前学修	参考図書の「アクセント」「リズム」「イントネーション」に関する箇所を読んでおく。
12 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「アクセント」「リズム」「イントネーション」に関する箇所を見ながら再確認する。
	授 業 内 容	意味の研究・多義性と同義性・前提と含意
13 回	事前学修	参考図書の「意味論」「多義性と同義性」「前提と含意」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「意味論」「多義性と同義性」「前提と含意」に関する箇所を見ながら再確認する。
14 回	授 業 内 容	他動性・アスペクト・「事実」と「想定」
	事前学修	参考図書の「他動性」「アスペクト」「ムード」「モダリティ」に関する箇所を読んでおく。
15 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「他動性」「アスペクト」「ムード」「モダリティ」に関する箇所を見ながら再確認する。
16 回	授 業 内 容	認知意味論
	事前学修	参考図書の「認知意味論」に関する箇所を読んでおく。
17 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「認知意味論」に関する箇所を見ながら再確認する。
18 回	授 業 内 容	メタファー・メトニミー
	事前学修	参考図書の「メタファーとメトニミー」に関する箇所を読んでおく。
19 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「メタファーとメトニミー」に関する箇所を見ながら再確認する。
20 回	授 業 内 容	形式意味論
	事前学修	参考図書の「形式意味論」に関する箇所を読んでおく。
21 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「形式意味論」に関する箇所を見ながら再確認する。
22 回	授 業 内 容	語用論・「協調の原理」
	事前学修	参考図書の「語用論」に関する箇所を読んでおく。
23 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「語用論」に関する箇所を見ながら再確認する。
24 回	授 業 内 容	ポライトネス
	事前学修	参考図書の「ポライトネス」に関する箇所を読んでおく。
25 回	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「ポライトネス」に関する箇所を見ながら再確認する。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『日英語対照による英語学概論』 西光義弘 編 くろしお出版
市販本『英語学入門』 安藤貞雄・澤田治美 編 開拓社
市販本『日英対照 英語学の基礎』 三原健一・高見健一 編 くろしお出版

◆**成績評価基準** メディア授業受講状況（質疑応答，ディスカッション）20%， 理解度チェック10%，最終試験70%

◇東洋史概論／東洋史概説 MA（開講単位数:2単位）

担当者:高綱 博文

充当科目コード: K32300（東洋史概論）（法学部のみ）
Q30300（東洋史概説）（法学部以外の学部）

配当学科: 全学科・専攻（在籍学部によって充当科目が異なるため注意すること）

配当学年: 2 学年以上

◆**授業概要** 本授業はアヘン戦争から改革・開放政策により超大国化した中国の近現代史を多くの図像や映像など使用しながら物語るものである。

◆**学修到達目標** 中華帝国の解体からネーション・ステートとしての再生の歴史ドラマをたどることによって、近代中国の苦悩を理解し、世界の中における中国とは何であるかについて考えることを目標とする。

◆**授業方法** メディアを利用した授業を中心としながら、テキスト及び参考書等による自己学修を併用する。

◆授業計画

1 回	授業内容	中国概論
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 1～185 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点を確認しておくこと。
2 回	授業内容	アヘン戦争
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 186～205 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
3 回	授業内容	太平天国運動
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 186～205 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
4 回	授業内容	洋務運動と変法変動
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 186～205 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
5 回	授業内容	辛亥革命
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 206～221 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
6 回	授業内容	五・四運動
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 222～236 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
7 回	授業内容	国民革命
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 222～236 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
8 回	授業内容	満洲事変
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 237～254 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
9 回	授業内容	日中全面戦争
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 237～257 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
10 回	授業内容	中華人民共和国の誕生
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 255～271 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
11 回	授業内容	文化大革命
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 255～271 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
12 回	授業内容	改革・開放政策下の中国
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の 272～292 頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。

◆**教科書** 通材『東洋史概説 Q30300／東洋史概論 K32300』通信教育教材（教材コード 000523）

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『シリーズ中国近現代史』岩波新書 2010～2011年

◆**成績評価基準** メディア授業受講状況（質疑応答，ディスカッション）25%，理解度チェック25%，最終レポート試験50%

◇経済学概論 MA(開講単位数:2単位)**担当者:関谷 喜三郎**

充当科目コード: R20300

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 経済学部は1 学年以上, その他の学部は2 学年以上

◆**授業概要** ミクロ経済学について学びます。ミクロ経済分析に必要な需要曲線・供給曲線を理解し、それにもとづいて市場メカニズムを説明していく。

◆**学修到達目標** 1. 家計と企業の行動分析を通じて需要曲線と供給曲線を理解する。2. 市場における価格決定と資源の効率的配分について学ぶ。3. 不完全市場における市場の失敗をさまざまな側面から学ぶ。

◆**授業方法** 教材にしたがって通信機器を通じて行なう。

◆**授業計画**

	授業内容	需要と供給
1 回	事前学修	特に準備は必要ない
	事後学修	ミクロ経済学の全体像を把握する
	授業内容	家計の行動
2 回	事前学修	消費者行動の概念についてみておく
	事後学修	最適消費計画について理解する
	授業内容	最適選択
3 回	事前学修	代替効果・所得効果についてみておく
	事後学修	需要曲線の導出を理解する
	授業内容	無差別曲線分析の応用
4 回	事前学修	テキストの関連するところをみておく
	事後学修	応用分野についてその内容を確認しておく
	授業内容	企業行動: 利潤最大化
5 回	事前学修	生産関数の意味を理解しておく
	事後学修	利潤最大化条件を理解する
	授業内容	企業行動: 費用曲線
6 回	事前学修	費用曲線の基本的な内容をみておく
	事後学修	供給曲線の導出を理解する
	授業内容	企業行動: 費用最小化
7 回	事前学修	等費用線分析について確認しておく
	事後学修	費用最小化の意味を理解する
	授業内容	競争均衡
8 回	事前学修	完全競争市場の価格決定をみておく
	事後学修	最適資源配分について理解する
	授業内容	不完全競争: 独占
9 回	事前学修	不完全競争市場について理解しておく
	事後学修	独占市場の価格と生産量の決定を理解する
	授業内容	不完全競争: 寡占
1 0 回	事前学修	寡占市場における企業行動をみておく
	事後学修	ナッシュ均衡について理解する
	授業内容	不確実性
1 1 回	事前学修	不確実性・リスクの意味を確認する
	事後学修	不確実性下の企業行動について理解する
	授業内容	政府と市場の役割
1 2 回	事前学修	公共財・外部効果の意味を確認する
	事後学修	市場の失敗について理解する

◆**教科書** 通材『経済学概論 R20300』通信教育教材(教材コード 000244)

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『ミクロ経済学』 関谷喜三郎著 創成社

◆**成績評価基準** 最終試験を中心にしてメディアの利用状況, 提出物, レポートにて評価します。

◇日本経済論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:佐久間 隆

充当科目コード: R31000

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 2 学年以上

◆**授業概要** 日本経済の特徴点について理解するためのトピックスを取り上げます。そして、経済学の基礎概念と経済データを用いて検討を加えます。

◆**学修到達目標** 日本経済論MB(後期)と併せて履修することにより、次の2点を目指します。1 日本経済の特徴や日本で行われている経済政策について説明できる。2 日本経済の状況に変化が生じた際に、経済データや経済政策について自ら調べ考えることができる。

◆**授業方法** 基本的に教科書に沿って講義を行います。分かりやすく説明するため例示などで適宜補足したり、教科書出版後に公表された経済データを紹介したりもします。自習のために課題を提示します。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	授業のねらい、教科書の特徴、授業の進め方日本経済へのアプローチの仕方について確認します。
	事 前 学 修	教科書の1～4ページおよび10～13ページを読んでポイントをつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返したうえで、教科書全体がどのような構成になっているか確認してください。自習課題として年代ごとに選んだ経済白書(経済財政白書)に、ざっと目を通してみてください。
2 回	授 業 内 容	使用する経済学の基礎概念について確認し、日本経済を学ぶうえで経済データを併せ用いることが大切であることを理解します。
	事 前 学 修	教科書の14～21ページを読んで、この授業で用いる経済学の基礎概念と経済データを確認してください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。理解が不十分と感じた経済学の基礎概念があったら経済学の入門書、ミクロ・マクロ経済学の教科書で補ってください。自習課題として景気循環をとらえるのにどのような経済データが実際に用いられているかみてみましょう。
3 回	授 業 内 容	経済成長論の枠組みの中で高度成長を理解し、なぜ高い成長が可能だったのかを明らかにします。
	事 前 学 修	教科書の29～35ページを読んで経済成長論の見方をつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として総務省の「世界の統計」で他の国での高い成長の例を探してみましょう。
4 回	授 業 内 容	高度成長の終了からバブル経済とバブル崩壊後の低迷に至った過程を振り返ります。
	事 前 学 修	教科書の35～38ページおよび40～44ページを読んでこの時期の日本経済に次々と起きた出来事の流れをつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返し、この間に起きた事象の因果関係をフローチャートにしてみてください。自習課題として実質金利と為替レートについて計算してみることで、金融や国際経済の基本的考え方を間違えることなく実際の問題の考察に使えるようになります。
5 回	授 業 内 容	バブル崩壊後に失業が増え、緩やかながら長く続くデフレに陥った状況をみます。
	事 前 学 修	教科書の44～48ページを読んでこの時期の労働市場と物価動向に生じた変化を読み取ってください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として労働市場の需給を示す完全失業率の動きが何を示しているのか考えてみましょう。
6 回	授 業 内 容	低迷期の経済実態を金融面、国際経済面からみるとともに、バブルが生成し崩壊した過程とその原因について考えます。
	事 前 学 修	教科書の48～57ページを読んでバブルが何を意味するのか、経済にどのような影響を与えるかをつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として為替レートの増価・減価と貿易の関係について考えてみましょう。また、世界各国におけるバブルとその崩壊の事例を探してみましょう。これまでのノートと教科書の該当部分を読み返して1回目の理解度チェックに向け準備してください。
7 回	授 業 内 容	低迷期における日本の労働市場で失業が増加した理由を需要不足とミスマッチの観点から探ります。
	事 前 学 修	教科書の60～66ページを読んで失業の発生を理論的に説明する基本的な考え方をつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として労働統計の出典に当たるとともに、教科書で示した失業の要因が最近時点ではどうなっているかみてみましょう。
8 回	授 業 内 容	日本の所得格差について、格差を示す指標によって、他の国と比較し、時間の経過とともにどう変化したかをみます。格差の例として、日本における男女賃金格差について考えます。
	事 前 学 修	教科書の66～74ページを読んで格差を客観的にとらえるためには何が必要なのかをつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として教科書の事例に変更を加えて格差指標への理解を深めましょう。
9 回	授 業 内 容	日本における中小企業とベンチャー企業の状況についてみます。
	事 前 学 修	教科書の76～84ページを読んで企業規模の分け方と企業規模別にみた傾向を読み取ってください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として経済センサスの新しいデータをみて最近の変化を見てみましょう。
1 0 回	授 業 内 容	日本の開業率が低い理由を探り、中小企業や新規企業に求められる役割について考えます。
	事 前 学 修	教科書の85～92ページを読んで日本の起業環境や中小企業支援策の課題をつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として日本の企業支援の実態をみてみましょう。第7回以降のノートと教科書の該当部分を読み返して2回目の理解度チェックに向け準備してください。
1 1 回	授 業 内 容	データによって日本の産業構造の変遷をみたら、産業構造の変化が必要な理由について考えます。
	事 前 学 修	教科書の94～98ページを読んで産業ごとに異なる動きを読み取ってください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として日本における産業分類の詳細とその変遷をみてみましょう。
1 2 回	授 業 内 容	IT 革命が経済成長に持つ意味を考え、日本経済における IT 利用の課題を明らかにします。
	事 前 学 修	教科書の99～104ページを読んでITの発達に革命とまで呼ばれる理由やIT利用の面で日本経済が直面している課題をつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として米国のIT関連大手企業やGDP統計における無形資産の取り扱いについて調べてみましょう。
1 3 回	授 業 内 容	高度成長期における公害問題と近年の地球環境問題について、問題発生と解決へ向けての対処の違いを考えます。
	事 前 学 修	教科書の106～114ページを読んで公害問題と地球環境問題の性格の違いをつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として高度成長期の公害問題の映像記録をみて当時と現在の間に起こった変化について考えてみましょう。
1 4 回	授 業 内 容	地球環境問題には経済学的アプローチが有効であることを理解するとともに、原発の過酷事故を経験した日本におけるエネルギー源の選択の問題について考えます
	事 前 学 修	教科書の114～123ページを読んで環境問題への対処方法と日本のエネルギー政策について理解してください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として地球環境問題への対処としての規制やエネルギー政策についての政府資料を読んで問題への理解を深めましょう。11回以降のノートと教科書の該当部分を読み返して3回目の理解度チェックに向けて準備してください。
1 5 回	授 業 内 容	各章の内容を振り返り、キーワード理解を確認します。また、最終レポート試験に向けての注意事項を説明します。
	事 前 学 修	第1章から第14章まで履修済みであること、3回の理解度チェックをすべて終了していることを確認してください。
	事 後 学 修	ノート全体と教科書第一部を読み返して理解が十分でないところがあったら補ってください。

◆**教科書** 市販本『日本経済論』宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之著 中央経済社

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『岩波講座 日本経済の歴史第5巻』現代1 深尾京司・中村尚史・中林真幸編 岩波書店
市販本『岩波講座 日本経済の歴史第6巻』現代2 深尾京司・中村尚史・中林真幸編 岩波書店
市販本『やってみよう景気判断 指標でよくとく日本経済』高安雄一著 学文社

◆**成績評価基準** 質疑応答、ディスカッションを含む受講状況(10%)、理解度チェック(30%)および最終レポート試験(60%)により総合的に評価します。

◇国際経済論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:前野 高章

充当科目コード: R31100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** このメディア授業では、国際経済学に関する基礎理論およびその政策論関連内容を中心に解説を進めていく。講義は、世界経済発展の歴史、戦後の国際通貨秩序の確立および自由貿易体制の形成、経済構造の変質そして国際通貨制度の変遷を踏まえ、基礎理論としての比較優位の理論、国際貿易に関する純粋理論および国際貿易政策について逐次に解説していく。

◆**学修到達目標** 本講義では、現実の国際経済の歴史的変遷をふまえながら、世界経済の生成過程および国際分業体制の変化・進展に沿って国際貿易理論がどのように展開されてきているのかを理論的に把握する。最終的には、国際経済現象をモデル化し分析する能力を養い、変化の激しいグローバル経済の特徴や課題を理解することを目的とする。

◆**授業方法** インターネットを通じてメディア教材から学修をする。メディア授業の素材構成は本通信教育教材『国際経済論』の第1章と第2章に基づいている。国際経済論は応用経済学分野の科目であるため、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することを強く勧める。事前にミクロ経済学関連の基礎理論を復習すること。

◆授業計画

1 回	授業内容	第二次大戦までの世界経済の生成と発展
	事前学修	教科書第1章第1節から第3節を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
2 回	授業内容	戦後の世界経済の発展とその特徴
	事前学修	教科書第1章第4節から第5節を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
3 回	授業内容	戦後の経済体質と経済構造の変質
	事前学修	教科書第1章第6節を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
4 回	授業内容	1990 年代以降の世界経済の変貌
	事前学修	教科書第1章第7節を中心に読んでおく。
	事後学修	第1回から第4回までの講義内容をもとに、世界経済の発展の歴史とその変遷についてノートにまとめる。
5 回	授業内容	伝統的貿易理論
	事前学修	教科書第2章での国際貿易の基礎と伝統的貿易理論の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
6 回	授業内容	新古典派の貿易理論
	事前学修	教科書第2章での新古典派貿易理論の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
7 回	授業内容	近代的貿易理論
	事前学修	教科書第2章での近代貿易理論の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	第5回から第7回までの講義内容をもとに、貿易理論の変遷とその特徴についてノートに整理する。
8 回	授業内容	国際貿易の純粋理論による説明—その1
	事前学修	教科書第2章第3節の前半部分を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
9 回	授業内容	国際貿易の純粋理論による説明—その2
	事前学修	教科書第2章第3節の後半部分を中心に読んでおく。
	事後学修	第8回から第9回までの講義内容をもとに、国際貿易の純粋理論について図を使って重要なポイントをノートに整理する。
1 0 回	授業内容	関税と経済厚生
	事前学修	教科書第2章第5節の前半部分を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
1 1 回	授業内容	輸出入政策と管理貿易
	事前学修	教科書第2章第5節の後半部分を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
1 2 回	授業内容	自由貿易と保護貿易
	事前学修	教科書第2章第5節の自由貿易と保護貿易の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	第10回から第12回までの講義内容をもとに、貿易政策および自由貿易と保護貿易をとらえる視点の重要なポイントをノートに整理する。これまでまとめたノートを復習し、各回での重要なポイントを整理する。

◆**教科書** 通材『国際経済論 R31100』通信教育教材（教材コード 000281）

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 平常点60%（リポート形式の理解度チェック：40%、メディア授業の受講状況：20%）と最終試験40%による総合評価。ただし、最終試験を受けていることが単位修得の条件となる。

◇情報概論 MA（開講単位数:2単位）

担当者:久東 義典

充当科目コード : R32300

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 現代社会は、情報社会といわれます。いたるところにコンピュータの機能をもった電子機器が存在し、日常生活に変革をもたらしています。こうした「情報社会」のベースとなっている考え方をWebによる学習方法でいつでもどこでも実践的に（ユビキタスコンピューティングの体験をしながら）、情報を科学的捉えること、情報を技術的に扱うこと、さらにはコミュニケーションの道具として理解することを体系的に学習します。

◆**学修到達目標** 情報機器やデジタル家電製品の基本となるコンピュータのハードウェア、ソフトウェアの仕組みと原理の基礎を把握することを目的とします。通常意識せず利用している情報化技術についての正しい知識を得ることにより、ビジネスや日常生活において、情報を効率的に安全に利用できる能力を高めることをめざします。コンピュータの初心者を対象としています。

◆**授業方法** Webを用いた在宅学習で授業を実施していきます。受講者は、教科書の該当する章をよく読んでノートにまとめてから、Webでの学習を進めてください。毎回練習問題にトライし、さらに総合的・多面的に理解するため数回経ると理解度チェック（全4回）にトライします。これらが本当に理解できたかを最終試験として、レポート提出し、取り組みに対して総合評価します。

◆授業計画

1 回	授業内容	コンピュータの構造 パソコンのカタログを調べてみると、細かい数字や難しい用語が並んでいます。これらは、パソコンのハードウェアの性能を表しています。パソコン内部を目にする機会はありませんが、中身についての概要が理解できれば、これらの数字の持つ意味が分かってきます。今回は、ハードウェアの構成や特徴について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
2 回	授業内容	CPUの動作原理 デジタルコンピュータは、パソコンでもスーパーコンピュータでもその動作原理は同じで、非常に単純なものです。この動作原理を理解することによってコンピュータの動作で注意すべきことが分かります。今回は、デジタルコンピュータの開発の歴史を知ると共に、基礎的な動作原理について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
3 回	授業内容	演算処理 半導体を使うと0と1の1桁の足し算が実現できることを学習してきましたが、2進数の考え方を使うと、この足し算を利用して、桁数の多い計算やかけ算、割り算などのより複雑な計算ができます。今回は、2進数の基礎を学習し、複雑な計算がどのように実現されるのかを見ていきます。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
4 回	授業内容	情報量 デジタルカメラのメモリには「1512メガバイト」などと書いてあったり、ハードディスクレコーダには「400ギガバイト」と書いてあったりします。一般に数字が大きくなるほど高価になりますが、それだけ性能も向上します。性能が向上するというのは、記憶できる量が増えるということです。今回は、これらの数字の意味を理解し、記憶できる量とは何なのかを学びます。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
5 回	授業内容	マルチメディア表現 かつては音楽をCDやMDで聞くのが普通でしたが、今では携帯電話やMP3プレーヤなど、記録しているメディアが見えない軽い機器に大量の曲が記録できるようになりました。また、最近ではパソコンや携帯電話でテレビが見られたり、ハードディスクレコーダで長時間録画ができるようになりました。これらは、音楽や映像のデジタル化によって可能になっています。今回は、音楽や映像のデジタル化とはどういうことか、またその情報量をどう測るのかについて学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
6 回	授業内容	データ通信 ホームページを閲覧するのに、自宅からアクセスした場合と、ホットスポットなどの外部からアクセスした場合とでは体感速度が大きく異なることがあります。このような通信速度の違いは、遅いは客観的な数字で表すことができます。今回は、通信速度の定義を知るとともに、データをより速く通信するための圧縮方法や、誤りなく通信するための誤り検出方法について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
7 回	授業内容	オペレーティングシステム 新たにパソコンを購入するときの大きな選択はWindowsにするかMacにするかです。Windowsのほうが使えるビジネスソフトの数が多く、一方、Macのほうがデザイン作業に優れていると言われる、それぞれに一長一短があって選択に迷うところです。WindowsとMacの本質的な違いとはハードウェアの差ではなく、基本ソフトであるオペレーティングシステムの違いです。今回は、オペレーティングシステムとは何かについて学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
8 回	授業内容	表計算 コンピュータは日本語で言うところの計算機ですが、文書作成にしてもインターネット利用にしても、あまり計算をしている印象がありません。本来、コンピュータの最も得意とする計算を有効に利用するのがExcelなどの表計算ソフトです。家庭ではあまり使われないかもしれませんが、学校や会社ではとても重要な重要なソフトウェアです。今回は、表計算ソフトの基本的な使い方について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
9 回	授業内容	データベース理論 コンサートチケットや電車の指定券の予約は、オンラインで接続されたコンピュータによって処理されています。全国にいる多くの人が同時に予約を入れても二重登録されないようにするために、コンピュータ上ではデータベースシステムがデータを管理しています。今回は、データベースの基礎理論について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
10 回	授業内容	データベース記述 コンサートチケットや電車の指定券の予約は、オンラインで接続されたコンピュータによって処理されています。全国にいる多くの人が同時に予約を入れても二重登録されないようにするために、コンピュータ上ではデータベースシステムがデータを管理しています。今回は、データベースの基礎理論について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
11 回	授業内容	プログラミングの基礎 コンピュータのソフトウェアにはワープロ、表計算などがありますが、これらは、プログラムという命令の集まりによって記述されています。プログラムの基本は比較的単純であり、それを論理的に組み立てていくことで複雑な作業を実現することができます。今回は、コンピュータソフトウェアを作成するためのプログラミングの基礎知識について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
12 回	授業内容	アルゴリズム 汎用性の高い手続型のプログラミング言語では、処理を逐一記述しなければなりません。CPUが解釈できる命令は限られているため、処理はコンピュータが実現しやすい手順に書き下す必要があります。現実的な時間で解を求めることができる効率的な方法を考えなければなりません。今回は、プログラムの処理を考えるための記述法を学び、並べ替えの処理を例としてプログラムの実現法を学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。

◆**教科書** 教材『情報概論 R32300』通信教育教材（教材コード 000453）

◆**参考書(参考文献等)** ITパスポート試験教科書（出版社不問）、基本情報技術者試験教科書（出版社不問）

◆**成績評価基準** 最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇商学総論 MA(開講単位数:2単位)**担当者:金 雲鎬**

充当科目コード : S20100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 商学部は1 学年以上, その他の学部は2 学年以上

◆**授業概要** 「商業」と言われると、コンビニやスーパーでの買物をイメージする人も多いと思います。この授業では、商品が店頭と並ぶまでの見えない世界に対する理解を深めることを1つの目標とします。前期には商品の取引と卸・小売システムについて基礎から説明します。また市場に対する理解を深める必要があることから、マーケティングの諸概念及び基礎理論も紹介します。

◆**学修到達目標** マーケティングと流通システムの基礎概念と理論を理解して、自分の言葉でその概念や原理を説明できるようになることが学修到達目標です。

◆**授業方法** この授業は講義型授業です。講義内容の中で理解できないことがある場合に、繰り返して動画を再生することをお勧めします。

◆授業計画

1 回	授業内容	オリエンテーション, 商業とマーケティング①「マーケティング・マネジメント論」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
2 回	授業内容	商業とは何か①「流通の定義, 商業者の存在意義」
	事前学修	参考書の第1 章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
3 回	授業内容	商業とは何か②「流通における費用, 生産者・消費者の流通費用」
	事前学修	参考書の第1 章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
4 回	授業内容	商業とマーケティング②「製品差別化」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
5 回	授業内容	商業とマーケティング③「市場, そして市場細分化」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
6 回	授業内容	商業とマーケティング④「製品ライフサイクル」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
7 回	授業内容	流通における構造①「小売商業の構造」
	事前学修	参考書の第2 章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
8 回	授業内容	流通における構造②「卸売商業の構造 i」
	事前学修	参考書の第3 章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
9 回	授業内容	流通における構造③「卸売商業の構造 ii」
	事前学修	参考書の第3 章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
1 0 回	授業内容	流通における関係①「生産者による流通系列化」
	事前学修	参考書の第7 章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
1 1 回	授業内容	流通における関係②「商業におけるパワー関係」
	事前学修	参考書の第6 章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
1 2 回	授業内容	流通における関係③「商業における信頼関係」
	事前学修	参考書の第5 章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
1 3 回	授業内容	流通における関係④「チェーンストア理論」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
1 4 回	授業内容	全体復習①「商業とマーケティング」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
1 5 回	授業内容	全体復習②「流通における構造, 流通における関係」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください

◆**教科書** **教材**『商学総論 S20100』通信教育教材 (教材コード 000356)

◆**参考書(参考文献等)** **市販本**『現代商業学 新版』高嶋克義著 有斐閣アルマ

◆**成績評価基準** レポートによる評価を行います。

◇経営学 MA(開講単位数:2単位)**担当者:高橋 淑郎**

充当科目コード : S20200

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 商学部は1 学年以上, その他の学部は2 学年以上

◆**授業概要** 現代社会において企業が果たしている役割やその影響力は大きい。企業経営のあり方如何が、国の経済力や国際競争力のみならず、我々個々人の生き方や暮らしぶりを大きく左右する。一方、私たちと企業との関係を考えれば、①出資者として（金融市場）②従業員として（労働市場）③顧客として（製品・サービス市場）④地域社会のメンバーとして（市場以外）として関係している。さらに、企業、政府、非営利組織が主に社会の組織として機能している中で、企業経営の基本的仕組みとそれを活用してリアル・ワールドを感じて欲しい。

◆**学修到達目標** 企業の行動原理やメカニズム、企業行動の問題点や改善策などについて学ぶことは、単に経営者や管理者だけでなく、企業との関わり抜きでは生きてゆけないすべての現代人にとって必要なことである。この講義を通じて、企業とはどのような存在であり、どのような指導原理やメカニズムで行動しているのかを学び、健全で有効な企業経営のあり方について考えてほしい。

◆**授業方法** メディア授業◆**授業計画**

1 回	授業内容	経営学とは
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
2 回	授業内容	現代産業社会の特質
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
3 回	授業内容	会社の概念と機能
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
4 回	授業内容	日本における企業の経営・所有・支配
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
5 回	授業内容	企業集団とグループ経営
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
6 回	授業内容	企業の目的と経営目標
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
7 回	授業内容	経営戦略 1
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
8 回	授業内容	経営戦略 2
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
9 回	授業内容	経営組織
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
1 0 回	授業内容	経営組織理論
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
1 1 回	授業内容	経営管理
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
1 2 回	授業内容	企業文化
	事前学修	教科書の当該章をノートを取りながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと

◆**教科書** 使用しない◆**参考書(参考文献等)** 通材『経営学 S20200』通信教育教材（教材コード000497）

『経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本』

経営学検定試験協議会監修, 経営能力開発センター編 中央経済社, 2016年

◆**成績評価基準** 最終試験を中心に、受講状況や理解度チェックなどを加味し、総合的に評価します。

◇簿記論 I MA(開講単位数:2単位)

担当者:村井 秀樹

充当科目コード : S20300

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 商学部は1 学年以上, その他の学科・専攻は2 学年以上

◆**授業概要** 簿記の基本原理解は、今から500年程前のルネッサンス時期、イタリアのルカ・パチョリによって体系化された。今では、この複式簿記の基本原理解が全世界に普及している。本講義では、貸借対照表と損益計算書の基本構造と、資産、負債、資本(純資産)、収益、費用に含まれる勘定科目とその結びつきをしっかりと理解する。

◆**学修到達目標** 学修到達目標は、企業のさまざまな取引を複式簿記の原理にもとづいて仕訳し、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)作成までの一連のプロセスを説明できることである。また、日商簿記検定試験3級の資格を取得できるようになる。

◆**授業方法** まず、各章の概要を「導入」で説明し、内容の説明、例題の解説、そして設定している問題を実際に解く。しかし、これだけでは不十分であるので、各人で市販されている問題集を利用して解いていただきたい。より多くの問題をこなせば、簿記に対する理解は格段に向上する。

◆授業計画

1 回	授業内容	簿記の概要：簿記の位置づけ、簿記の歴史、簿記の体系、自己点検
	事前学修	通信テキスト第1章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認をすること。
2 回	授業内容	複式簿記の構造：会計公準、資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、自己点検
	事前学修	通信テキスト第2章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
3 回	授業内容	複式簿記一巡の手続き：取引、仕訳と勘定、自己点検
	事前学修	通信テキスト第3章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
4 回	授業内容	商品：記帳方法、仕入諸掛り・発送費・返品・値引などの処理、仕入帳と売上帳、商品有高帳、自己点検
	事前学修	通信テキスト第4章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
5 回	授業内容	現金・預金：現金の範囲、現金出納帳、当座預金、当座預金出納帳、現金過不足、小口現金、当座借越、自己点検
	事前学修	通信テキスト第5章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
6 回	授業内容	売掛金・買掛金：売掛金、買掛金、貸倒れの処理、売掛金・買掛金以外の債権・債務、自己点検
	事前学修	通信テキスト第6章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
7 回	授業内容	有価証券：有価証券の範囲、有価証券の分類と評価、有価証券の売買、自己点検
	事前学修	通信テキスト第7章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
8 回	授業内容	受取手形・支払手形：受取手形・支払手形、約束手形、為替手形、手形の裏書譲渡・割引、受取手形記入帳・支払手形記入帳、手形貸付金・手形借入金、自己点検
	事前学修	通信テキスト第8章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
9 回	授業内容	固定資産：有形固定資産の購入、減価償却、有形固定資産の売却、自己点検
	事前学修	通信テキスト第9章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
10 回	授業内容	伝票：伝票の意味と種類、仕訳伝票、三伝票制、自己点検
	事前学修	通信テキスト第10章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
11 回	授業内容	決算：決算の意味、決算の手順、試算表の作成、棚卸表の作成、決算整理事項、精算表の作成、財務諸表作成手続き、自己点検
	事前学修	通信テキスト第11章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
12 回	授業内容	総まとめ：決算整理事項、精算表、自己点検
	事前学修	通信テキスト第12章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。

◆**教科書** ○**教材**『簿記論I S20300』通信教育部教材(教材コード 000454)

◆**参考書(参考文献等)** **市販本**『検定簿記講義 3級商業簿記』 渡部・片山・北村編著 中央経済社
市販本『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 渡部・片山・北村編著 中央経済社

◆**成績評価基準** 受講状況を40%、理解度チェックを20%、最終試験を40%として総合的に成績評価を行う

◇貿易論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:松原 聖

充当科目コード : S30400

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 国際貿易, 国際収支, 外国為替に関する問題を中心とする日本経済・世界経済の諸問題について, 履修者が基礎的な知識を得て, 同時に分析能力を養うことを狙いとしています。主なトピックは以下の通りです: (1) 日本の対外取引の現状, (2) 貿易の利益と国内問題, (3) 貿易実務の基礎, (4) 国際収支, (5) 外国為替市場と為替レート, (6) 海外直接投資と貿易構造。

◆**学修到達目標** 1. 日本の貿易構造をデータ・理論両面から理解し, 比較優位および保護主義の観点からこれらを説明できる。
2. 日本の国際収支および直接投資を理解し, 国際経済・マクロ経済の観点からこれらを説明できる。3. 外国為替市場および為替レートの日本経済への影響を理解し, 関連する(貿易)実務の基礎を身に着ける。

◆**授業方法** 講義においては理論の説明だけでなく, 統計データや日本経済新聞の記事などを元に, 学習到達目標に掲げた点を重視しながら, 授業概要に挙げた諸問題を説明します。日本経済新聞その他新聞の関連記事を合わせて読むと良いでしょう。新聞・テレビの経済ニュースを, 講義で学んだ内容を参考に見ると, 講義の理解がさらに深まります。

◆授業計画

1 回	授業内容	財務省「貿易統計」を参照しながら, 日本の貿易の概要(全体的傾向, 主な貿易相手国・地域, 主な輸出品・輸入品など)を確認する。
	事前学修	教科書第1章を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容	比較優位の原理 I: リカードの貿易理論 を説明する。
	事前学修	教科書第2章(20 ページまで)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
3 回	授業内容	(ミクロ)経済学の基礎である「需要・供給分析」を説明する。
	事前学修	教科書第2章補論を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し, 授業内容を確認し理解しておくこと。
4 回	授業内容	比較優位の原理 II: ヘクシャー・オリーンの貿易理論を説明する。
	事前学修	教科書第3章を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
5 回	授業内容	保護主義に関するいくつかの議論を説明する。
	事前学修	教科書第4章を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容	貿易実務の基礎的な内容(その1)を説明する。
	事前学修	教科書第5章(68 ページまで)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
7 回	授業内容	貿易実務の基礎的な内容(その2)を説明する。
	事前学修	教科書第5章(68~70 ページ)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
8 回	授業内容	国際収支表について説明する。
	事前学修	教科書第6章(82 ページまで)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
9 回	授業内容	(日本の)国際収支とマクロ経済との関係について説明する。
	事前学修	教科書第6章(82~90 ページ)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
1 0 回	授業内容	外国為替市場と為替リスクについて説明する。
	事前学修	教科書第7章(100 ページまで)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
1 1 回	授業内容	為替レートと日本経済の関係について説明する。
	事前学修	教科書第7章(100~107 ページ)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
1 2 回	授業内容	海外直接投資について説明する。
	事前学修	教科書第8章を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。

◆**教科書** 教材『貿易論 S30400』通信教育教材(教材コード 000439)

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『マンキュー入門経済学(第2版)』N. グレゴリー・マンキュー著 足立ほか訳
東洋経済新報社 2014年

市販本『徹底解説 国際金融～理論から実践まで』清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著
日本評論社 2016年

◆**成績評価基準** メディア授業受講状況(質疑応答, ディスカッション)25%, 理解度チェック25%, 最終レポート試験50%

◇広告論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:雨宮 史卓

充当科目コード : S30900

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** マーケティングのフレームワークの一要素である「広告」, 及び製品戦略の一領域を超え, 独立した領域を築いている「ブランド」に対する研究の重要性が高まっている。テレビを見ない日はあっても広告を見ない日はないと言っても過言でないくらい, 広告は我々の生活に深く浸透し, もはや広告は生活の一部である。そのため, 本メディア授業では広告の基本的機能・役割の理解を目指し, 広告とブランド・コミュニケーションに焦点をあてる。企業の広告戦略及びブランド戦略を学びながら, 人々の欲求を創造するコミュニケーション活動である広告を生活全体や文化といった広い視点で理解できる事を心掛ける。

◆**学修到達目標** 1. 広告の基本的機能と役割が理解できる。2. 広告及び宣伝, PR, プロモーション等の意義を理解し, マーケティング戦略の中でこれらが, どのように機能しているかを説明できる。

◆**授業方法** 収録されている授業をよく聞いて理解するように心掛けてください。テキストには書いていない事も収録されていますが, 必ず理解できる内容です。授業内容と教科書が重複する箇所は復習を兼ねて熟読することでさらに理解が深まります。毎回, 授業内容のノートを作成するように心掛けてください。

◆授業計画

	授業内容	マーケティングとプロモーションの関係
1 回	事前学修	テキストの「序にかえて」の部分をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, テキストの 36 頁の図と授業内容を確認し理解しておくこと。
	授業内容	サービスと価格
2 回	事前学修	テキスト 106~107 頁をよく読み, サービスの特徴を理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 「サービスの評価基準」の図を理解しておくこと。
	授業内容	流通戦略
3 回	事前学修	流通の意義・役割を前もって文献やインターネット等で調べておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 「小売りの輪」「真空地帯の理論」を理解しておくこと。
	授業内容	プロモーション戦略
4 回	事前学修	テキスト 34~39 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, プッシュ戦略とプル戦略の違いを理解しておくこと。
	授業内容	プロモーションの種類 1 (広告の定義・役割)
5 回	事前学修	テキスト 31~34 頁, 及びテキスト 36~37 頁の「広告」の部分をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 教科書の該当部分を読んで, 授業内容を確認し理解しておくこと。
	授業内容	プロモーションの種類 2 (広告の基本過程, 人的販売, PR 活動, 狭義の販売促進)
6 回	事前学修	前回の授業の内容をノートで確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 人的販売, PR 活動の内容を理解すること。さらに狭義の販売促進の種類を頭に入れておくこと。
	授業内容	広告戦略 1 (広告の種類, コモディティ商品の広告戦略)
7 回	事前学修	テキスト 49~57 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 教科書の該当部分を読んで, 授業内容を確認し理解しておくこと。
	授業内容	広告戦略 2 (高価格商品の広告戦略)
8 回	事前学修	テキスト 39~46 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 教科書の該当部分を読んで, 授業内容を確認し理解しておくこと。また, 「消費者へのシグナル」の内容を理解しておくこと。
	授業内容	ブランド戦略
9 回	事前学修	テキスト 1~12 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 教科書の該当部分を読んで, 授業内容を確認し理解しておくこと。
	授業内容	ブランド・マーケティング
1 0 回	事前学修	テキスト 15~27 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, テキスト 20 頁の表におけるブランドの 9 項目を理解しておくこと。
	授業内容	経験価値と総称ブランド
1 1 回	事前学修	テキスト 68~73 頁を熟読し, 73 頁の図が意味する内容を把握しておくこと。
	事後学修	経済価値としての経験価値を認識した上で, 経済価値の変遷をテキスト 68 頁の表を参照して理解しておくこと。
	授業内容	ストアのブランド概念
1 2 回	事前学修	テキスト 108~113 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 内食, 中食, 外食の概念を理解しておくこと。
	授業内容	消費者行動 1 (マズロー欲求五段階説, 顧客購買への心理的プロセス)
1 3 回	事前学修	テキスト 99~102 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し, 101 頁の図をノートに書き写しておくこと。
	授業内容	消費者行動 2 (プロスペクト理論, 採用者カテゴリー)
1 4 回	事前学修	前回の授業の内容をノートで確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理しておくこと。
	授業内容	広告論 MA の総復習
1 5 回	事前学修	今までの授業内容をノートで確認しておくこと。
	事後学修	テキスト全体を読み返し, それぞれの当該箇所をノートで確認し, 広告理論・戦略, ブランド概念を理解すること。

◆**教科書** 市販本『ブランド・コミュニケーションと広告』 雨宮史卓著 八千代出版

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 全ての単元を受講していることが評価の前提条件となります。その上で, 理解度チェック (30%), 最終試験 (70%) で評価をします。

◇現代教職論 M(開講単位数:2単位)

担当者:古賀 徹

充当科目コード:T10100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにしていきたい。

◆**学修到達目標** 次の事項について理解を深め、教員としての意識を高めることができる。①教職の意義とは何か。②教員に必要とされる資質・能力とは何か。③学校教育という独特の社会における意義や教員の同僚性について。④教員の職務や身分上の問題について。⑤生徒の成長・発達差の理解。【以上を、歴史的、国際的、および現代の課題という点から作成した教材により考え、理解を深める】

◆**授業方法** コンテンツを視聴し、参考文献等も活用しながら教材の内容について考え深める。教材内の書き込み欄や理解度チェック等により理解度を確認する。各種の掲示板を使って質疑応答もできる。

◆授業計画

1 回	授業内容	教職の教育—教員養成と現職教員の成長
	事前学修	自身が目指す「教職」についてのイメージを手元に「複数」書き出しておくこと。
	事後学修	コンテンツの内容を5分程度で概説できるように(短い論述で)まとめる。
2 回	授業内容	教師の仕事—教科指導・生活指導・学級経営
	事前学修	次の用語でイメージできることを書き出しておく。「校務分掌」「教科指導」「生活指導」。
	事後学修	「学校の存在意義」(教科指導・生活指導)について説明文を(短い論述で)まとめる。
3 回	授業内容	子ども(生徒)とのかかわり—生徒理解と授業の前提条件
	事前学修	「わかる」(理解する)とはどのようなことか。その説明概念を(複数)考えておく。
	事後学修	学校でのコミュニケーションの意味や意義について(短い論述で)まとめる。
4 回	授業内容	様々な集団への対応(1)—集団活動を通じて学んでいく生徒たち
	事前学修	「総合的な学習の時間」の目標や意義は何かについて、メモとして書き出しておく。
	事後学修	「集団で学ぶ」ことを指導していくことの大切さや難しさについて説明文を書く。
5 回	授業内容	様々な集団への対応(2)—集団指導・グループ学修の方法論
	事前学修	集団指導の意義や難しさ(問題点)について、イメージすることをメモで用意しておく。
	事後学修	コンテンツの内容について感想をまとめて「集団指導の意義」について論述する。
6 回	授業内容	最近の子ども事情(1)—非行・ストレス・いじめ
	事前学修	青少年の「非行」や「いじめ」について、白書や記事等のデータ類を探して読んでおく。
	事後学修	青少年と「ストレス」の問題について、短い論述をまとめるトレーニングをする。
7 回	授業内容	最近の子ども事情(2)—不登校への対応
	事前学修	「不登校」に関する記事等を読み、イメージをまとめておく。
	事後学修	青少年の問題行動に対応する教員の立ち位置について、短い文での表現を工夫する。
8 回	授業内容	教員養成の歴史(1)—戦前の教員養成
	事前学修	明治期(近代化の当初)の教育について、文献(事典等もあり)を読んでおく。
	事後学修	近代教育の展開を理解し、まとめる(文章で表現する)。
9 回	授業内容	教員養成の歴史(2)—戦後の教員養成
	事前学修	戦後の教育に関する概説書を読んでおく。
	事後学修	戦時期から戦後の教育発展の歴史について「教員」の視点からまとめる。
10 回	授業内容	世界の教員養成
	事前学修	日本以外の国の「教育(学校)」についてイメージをまとめるメモを用意する。
	事後学修	欧米の教育との違いや共通点について短い文で論述できるようにする。
11 回	授業内容	教員に関する法令—地位、身分、研修、免許更新制
	事前学修	各種文献に載っている「法令」類を一読しておく。
	事後学修	教員養成ではなく「講習」のもつ意味や意義について説明文を書く。
12 回	授業内容	教室に立つために—教育実習と学修指導案の構成
	事前学修	自身が実習で教壇に立つことをイメージして指導計画デザインのメモを記す。
	事後学修	学習指導案づくりに慣れるため、様々な内容・範囲の授業案を作成する。

◆**教科書** 通材『現代教職論 T10100』通信教育教材(教材コード 000541)

◆**参考書(参考文献等)** 『求められる教師像と教員養成』 山崎英則・西村正登編 ミネルヴァ書房
『転換期の教師』 油布佐和子著 放送大学教材

◆**成績評価基準** 最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇教育原論／教育の思想 M(開講単位数:2単位)

担当者:北野 秋男

充当科目コード: 2011年度1学年入学, 2012年度1学年入学, 2学年編・再入学,
2013年度1学年入学, 2・3学年編・再入学, 2014年度以降の入学生及び
科目履修生はT10200(教育原論)

上記以外の学生はT10300(教育の思想)

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 2学年以上

◆**授業概要** 主たる教育思想家の核となる教育思想について理解を深めながら, 全体として教育思想の歴史的系譜を理解したい。とりわけ, 近代教育の中心的テーマである人間の内面形成, 近代的な教授学思想, 新教育運動, 公教育の成立と発展など, 重要なテーマに関する教育思想の内容を理解する。教育思想に関連する「ビデオ」や資料などを参考にして, より深く教育思想を理解するとともに, 現代的な教育問題との関連についても理解を深めることとする。

◆**学修到達目標** 現代の教育問題を考える上で, 教育思想の歴史的展開を学ぶことは重要である。教育の様々な問題を思想的に学びながら「教育とは何か」を自覚的に問いたいと考える。特に, 教育の目的論(人間の内面形成)と教授学思想(一斉教授と個別教授)の展開を中心としながら, 国民教育論, 新教育理論, 脱学校論なども取り上げる予定である。

◆**授業方法** ○テキストの主要課題について理解を深めながら, 教育思想を理解したい。討論も行う。その他には, 「ビデオ」も鑑賞し, 学力問題, フリー・スクールなどの現代的な問題にも理解を深めることとする。授業内で簡単なレポート作成と課題報告も行う。最後には, 学習内容に関する最終試験を行う。

◆授業計画

	授業内容	なぜ、教育思想を学ぶのか—現代教育の課題と教育思想を学ぶ意味—
1回	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	あなたの考える現代教育の課題と問題点をノートにまとめること。
	授業内容	コメニウスの教授学—一斉教授の方法—
2回	事前学修	テキストの第1章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	ロック自律論—人間の理性による自律—
3回	事前学修	テキストの第2章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	ルソーの市民教育—子どもの発見—
4回	事前学修	テキストの第3章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	ペスタロッチの人間教育—直観教授の発見—
5回	事前学修	テキストの第4章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	ヘルバルトの科学的教育学—教授過程の定型化—
6回	事前学修	テキストの第5章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	フレーベルの幼児教育—幼稚園の創設—
7回	事前学修	テキストの第6章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	マンの公教育普及論—教育を受ける権利思想—
8回	事前学修	テキストの第7章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	デューイの新教育思想—児童中心の教育—
9回	事前学修	テキストの第8章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	ニールの自由主義教育論—フリー・スクールの創設者—
10回	事前学修	テキストの第9章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	ブーバーの教育的出会い—教師と子どもとの関係—
11回	事前学修	テキストの第10章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	イリイチの脱学校論—自由な学習機会の保障—
12回	事前学修	テキストの第12章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
	授業内容	

◆**教科書** 市販本『教育思想のルーツを求めて』 関川悦男・北野秋男著 啓明出版

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 授業への参画(20%), 理解度チェック(30%), 最終試験(50%)で総合的に判断します。

◇教育制度論 M(開講単位数:2単位)

担当者:北野 秋男

充当科目コード:T20200

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために、以下のトピックを取り上げ、多角的な授業を展開する。トピックの容は、近代公教育制度の成立（教育の権利と義務）、現代の学校を取り巻く制度改革や地域との連携、教師職務と専門性、学力と評価制度、教育委員会制度の改革、学校と地域の連携（コミュニティ・スクール）、学校安全への対応などである。現代の教育制度改革の理念や背景を理解したい。

◆**学修到達目標** 現代の国内外の学校制度改革の様々な動向を、基礎的事項や用語を中心に、分かりやすく解説する。その際に、社会の状況や歴史的背景を理解し、その変化が現代の学校教育にもたらす影響や課題を検討する。また、現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために、政治・経済・福祉・文化などの社会的観点からのアプローチも取り入れ、教育に関する広範囲で深い視野を育成しつつ、教育への基礎的・基本的な視座を養うことを目標にする。

◆**授業方法** テキストを事前に丁寧に読んでおくこと。その際には、日本の教育制度の特徴や問題点を念頭に置きながら読み進めること。新自由主義的な方向へと進む、我が国の教育制度改革の全体像を大まかに理解しておくこと。

◆**授業計画**

	授 業 内 容	ガイダンス、全体の授業構成、課題の説明、評価方法など、
1 回	事前学修	シラバスをよく読み、テキストを購入し、「はじめに」を読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
2 回	授 業 内 容	教育の権利と義務、学習権思想、「憲法」や「教育基本法」の理解
	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
3 回	授 業 内 容	近代公教育制度の成立と展開
	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
4 回	授 業 内 容	学校選択制度の実態と賛否
	事前学修	テキストの第 1 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
5 回	授 業 内 容	学級の運営と経営、学級制度の歴史
	事前学修	テキストの第 2 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
6 回	授 業 内 容	教師の職務と専門性（教師の多忙化）
	事前学修	テキストの第 5 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
7 回	授 業 内 容	学習指導要領と学力観の変遷
	事前学修	テキストの第 3 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
8 回	授 業 内 容	教育委員会制度改革の歴史
	事前学修	テキストの第 4 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
9 回	授 業 内 容	学校・教師と保護者・地域の連携（コミュニティ・スクール設置の経緯）
	事前学修	テキストの第 5 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
10 回	授 業 内 容	コミュニティ・スクールの全国的動向と実践事例
	事前学修	参考書を使って、全国的な動向や実態を調べておこう。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
11 回	授 業 内 容	学力の評価制度
	事前学修	テキストの第 6 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
12 回	授 業 内 容	格差社会の現状と背景、格差と教育・学力への影響
	事前学修	テキストの第 7 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
13 回	授 業 内 容	特別支援教育の制度と理念
	事前学修	テキストの第 8 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
14 回	授 業 内 容	学校の事件・事故・災害と学校安全への取り組み
	事前学修	過去の自然災害、学校内のいじめや暴力など、学校の安全に関する問題を調べる。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
15 回	授 業 内 容	社会・教育における課題、授業の総括
	事前学修	テキスト、授業用のノートを丁寧に復習しておくこと。
	事後学修	解答できなかった不明な個所を確認し、復習しておくこと。

◆**教科書** 『教育学へのアプローチ～教育と社会を考える18の課題～』 北野秋男編著 啓明出版

◆**参考書(参考文献等)** 『地域運営学校成功への道しるべ』 北野秋男編著 ぎょうせい

◆**成績評価基準** 授業への参画（20％）、理解度チェック（30％）、最終試験（50％）で総合的に判断します。

◇特別活動論／特別活動の研究 M（開講単位数:2単位） 担当者:今泉 朝雄

充当科目コード：2011年度1学年入学，2012年度1学年入学，2学年編・再入学，
2013年度1学年入学，2・3学年編・再入学，2014年度以降の入学生及び
科目履修生はT21500（特別活動論）

上記以外の学生はT21600（特別活動の研究）

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆**授業概要** 学校における教科外の集団活動である「特別活動」が教育課程の中でどのように位置づけられ，青年期の人間形成においていかなる意味をもつか，教科外の集団活動が戦前どう取り扱われ，戦後いかなる過程を経て教育課程として成立したか，について考察する。そして，今日の学校，教育の中で展開されている特別活動がどのような目標をもっているか，個別の活動分野として，学級活動・ホームルーム活動，生徒会活動，学校行事がどのようなものであるかについて考察する。

◆**学修到達目標** ①特別活動の前史である戦前の教科外活動の成立やその意義について理解する。 ②戦後においてどのように教育課程化されたかについて理解する。 ③現代の教育課程に於ける特別活動の意義，目標，内容について理解する。 ④学級活動，生徒会活動，学校行事の目標，内容，計画上の留意点等について理解し，実際の指導計画作りの基礎的な資質・能力を身につける。

◆**授業方法** 教科書の各章の内容に沿ってメディア映像にて講義する。そこで学んだ学習内容について自身なりの理解をもとに，自身の経験や知見と照らし合わせながら実践的に考察して欲しい。

◆**授業計画**

1回	授業内容	「特別活動の研究」はどんな科目か，またどうしてそれを学ぶのか
	事前学修	これまで学校教育で取り組んできた集団活動について振り返っておく。
	事後学修	本時の内容について学ぶ意義を自身なりにまとめる。
2回	授業内容	教育課程と特別活動の関係
	事前学修	特別活動が自分にとってどのような意味を持っていたのか考えてみる。
	事後学修	自身の特別活動の経験を教育課程の位置付けから捉え直してみる。
3回	授業内容	教育的価値として認められた課外活動の実例(1) 一遠足と運動会一
	事前学修	これまでの遠足，運動会の経験を振り返っておく。
	事後学修	ここで学んだことと自身の経験との関係を考察しまとめる。
4回	授業内容	教育的価値として認められた課外活動の実例(2) 一学芸会と相談会一
	事前学修	これまでの学芸会，文化祭，学級会等の経験を振り返っておく。
	事後学修	ここで学んだことと自身の経験との関係を考察しまとめる。
5回	授業内容	課外活動(特別活動)の教育課程化とその条件
	事前学修	中学・高校の教育課程にどのような内容があるかを整理しておく。
	事後学修	教育課程化の条件が何かについて整理する。
6回	授業内容	自由研究の新設と特別教育活動への移行
	事前学修	第3回～第5回の内容をもう一度復習しておく。
	事後学修	自由研究の新設と特別教育活動への移行について概説できるように整理する。
7回	授業内容	特別活動の成立とその後の歩み
	事前学修	第6回の内容について復習しておく。
	事後学修	1969年改訂での変化，それ以降のプロセスを概説できるように整理する。
8回	授業内容	2008年の学習指導要領の改訂
	事前学修	「学習指導要領」とは何かについて自身なりにまとめておく。
	事後学修	2008年改訂の特徴を概説できるように整理する。
9回	授業内容	特別活動の改訂と目標
	事前学修	特別活動にはどのような教育目標があり得るか，自身なりに考えてみる。
	事後学修	自身の考えと実際の目標規定を比較し気付いたことをまとめる。
10回	授業内容	学級活動の目標・内容・内容の取扱い
	事前学修	学級活動はどのような取組だったか，そこから何を学んだか，経験を振り返る。
	事後学修	自身の経験が目標，内容等の規定とどのように関わっていたのかを考察する。
11回	授業内容	生徒会活動の目標・内容・内容の取扱い
	事前学修	学級活動はどのような取組だったか，そこから何を学んだか，経験を振り返る。
	事後学修	自身の経験が目標，内容等の規定とどのように関わっていたのかを考察する。
12回	授業内容	学校行事の目標・内容・内容の取扱い
	事前学修	学級活動はどのような取組だったか，そこから何を学んだか，経験を振り返る。
	事後学修	自身の経験が目標，内容等の規定とどのように関わっていたのかを考察する。

◆**教科書 教材**『特別活動論／特別活動の研究 T21500／T21600』通信教育部教材（教材コード 000443）

※この教材は市販の『最新 特別活動の研究』関川悦雄著（啓明出版）と同一です。

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 受講状況(30%)，理解度チェック(30%)，試験(40%)。理解度チェックをすべて提出していることを前提に評価します。

◆**備考** 本講座は「T23400 特別活動・総合的な学習の時間の指導法」には充当できません。注意してください。

◇教育の方法・技術論MA(開講単位数:2単位)

担当者:壽福 隆人

充当科目コード:T21700

配当学科:全学科・専攻

配当学年:2学年以上

◆**授業概要** 学習指導要領に示されているこれからの日本青年に求められる資質・能力を育成するために、情報機器を活用した授業展開ができる教師の育成めざし、教育方法学、教育技術論の基礎を理解する。

◆**学修到達目標** 教育方法に関する理論の展開を歴史的に理解して、今日の学校教育に必要な基礎的・基本的な教授法と技術に関する知識を獲得できるように学修する。さらに、これからの学校教育に求められる課題に対応できるよう、教育機器を利用した授業、討論など生徒が主体的に考える授業を積極的に展開していける教師となるための具体的教授法を身につける。

◆**授業方法** メディア講義における説明を理解するだけでは本講義の目的を達成するためには達成されない。インターネット上で紹介されている様々な学習指導案や授業展開の方法を自ら検索して、講義内容の意味を確認していく必要がある。

◆授業計画

	授業内容	教育方法学とはどんな学問か
1回	事前学修	教育原論などこれまでの教職課程科目で学んだことをまとめる
	事後学修	教育方法学の概念についてテキストを参考としてまとめる
	授業内容	わが国の教育方法学研究の歴史
2回	事前学修	わが国の近代公教育の歴史についてまとめる
	事後学修	わが国の近代公教育に影響した教育方法学についてまとめる
	授業内容	学校教育とカリキュラム
3回	事前学修	各自の学校歴のなかで「時間割」とはどんなものだったかまとめる
	事後学修	カリキュラムの意味・意義についてまとめる
	授業内容	授業の形態と集団の編成・指導
4回	事前学修	学年・学級・班など学校に見られる集団にはどのようなものがあるかまとめる
	事後学修	学習集団が持つ意味を考える
	授業内容	授業形態の多様化
5回	事前学修	各自の学校歴のなかでどのような授業形態があったか思い出してまとめる
	事後学修	講義形式以外のさまざまな授業形態はそれぞれどのような意味を持っていたか考える
	授業内容	学級編成と学級運営
6回	事前学修	各自の学校歴の中から担任の先生の学級運営に関する工夫について思い出す
	事後学修	学級の役割について考える
	授業内容	小集団指導
7回	事前学修	各自の学校歴のなかで経験した小グループの活動について考える
	事後学修	小集団編成による指導方法の意義について考える
	授業内容	教育の技術とはなにか
8回	事前学修	「方法」と「技術」の違いについて考える
	事後学修	テキストを参考にして「技術」を支える思想について考える
	授業内容	授業の展開
9回	事前学修	各自の学校歴のなかでもっとも楽しかった授業の特徴について考える
	事後学修	インターネット上に公開されている様々な授業を検索して授業について考える
	授業内容	授業の展開を豊かにする物的手段
10回	事前学修	各自の学校歴のなかで経験がある教具についてまとめる
	事後学修	授業のなかで教具が果たす役割について考える
	授業内容	教育評価
11回	事前学修	各自の学校歴のなかで成績表にはどのようなものがあったかまとめる
	事後学修	教育評価が生徒に与える影響について考える
	授業内容	教育評価の方法
12回	事前学修	点数法・序列法・偏差値法など評価表記の方法について調べる
	事後学修	適切な評価方法について考える
	授業内容	ICT教育の現状と課題
13回	事前学修	ICT教育に用いられる教具にはどのようなものがあるか調べる
	事後学修	ICT教育の将来について考える
	授業内容	メディアについての教育
14回	事前学修	メディアにはどのようなものがあるか、それらの特色について調べる
	事後学修	メディアリテラシーについてまとめる
	授業内容	メディアによる教育
15回	事前学修	現代人の生活に大きな影響を与えているメディアについて考える
	事後学修	メディアによる教育が生む問題点について考える

◆**教科書** 『新訂歴史教育の課題と教育の方法・技術』 壽福隆人著 DTP出版（平成31年4月上旬発売予定）

◆**参考書(参考文献等)** 『教育の方法と技術—改訂版』 柴田義松編集 学文社
『教育方法学』 佐藤学 岩波出版
『授業』 斎藤喜博 国土社

◆**成績評価基準** 最終試験を中心に、受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価する。

◇国文学演習 MA(開講単位数:1単位)

担当者:近藤 健史

充当科目コード:M404S0(国文学演習Ⅰ)

M405S0(国文学演習Ⅱ)

M406S0(国文学演習Ⅲ)

M407S0(国文学演習Ⅳ)

M408S0(国文学演習Ⅴ)

M409S0(国文学演習Ⅵ) ※各自の履修状況により指定してください。

配当学科:文理学部文学専攻(国文学)のみ

配当学年:3学年以上

◆**授業概要** 前半は、国文学演習入門、万葉集入門、説話文学入門のコンテンツを視聴して、国文学の基礎や研究方法を学修する。後半は、課題設定してあるテーマについて、調査・研究して口頭発表、全体討論をする。

◆**学修到達目標** 演習を通して、調査・研究の方法、発表資料の作成、ディスカッションの仕方などを学修し、国文学を研究するために必要な基礎を身につけ、自分の意見や研究成果を発表できることを目標とする。

◆**授業方法** e-ラーニングを利用したメディア授業である。前半は、メディアを利用した基礎的な内容の講義である。後半は、数人でグループを作り、課題のテーマについてグループディスカッションにより調査・研究し、発表資料などを作成して発表する。発表についての全体討論を行う。司会者は、全体討論が円滑に進むように努める。

◆**授業計画**

1回	授業内容	はじめに(授業計画、教員紹介など)について講義する。
	事前学修	インターネットの環境、授業計画を確認しておくこと。
	事後学修	授業のねらいと構成を確認しておくこと。
2回	授業内容	国文学演習入門について講義する。
	事前学修	グループディスカッション、発表報告・全体討論の形式であることを理解すること。
	事後学修	演習の基本的なことを確認しておくこと。
3回	授業内容	万葉集入門について講義する。
	事前学修	万葉集の基本的なことを確認し、各グループで発表について相談・準備を始めること。
	事後学修	万葉集入門で学修したことについて、万葉集のテキストで確認しておくこと。
4回	授業内容	説話歌入門について講義する。
	事前学修	参考文献などにより、説話歌について理解しておくこと。
	事後学修	事前学修内容と授業内容について照合して理解しておくこと。
5回	授業内容	テーマ1について、発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表の内容、全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
6回	授業内容	テーマ2について、発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表の内容、全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
7回	授業内容	テーマ3について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
8回	授業内容	テーマ4について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
9回	授業内容	テーマ5について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
10回	授業内容	テーマ6について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
11回	授業内容	テーマ7について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
12回	授業内容	テーマ8について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。

◆**教科書** 市販本『訳文 万葉集』森淳司編 笠間書院

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『上代説話事典』大久保・乾編 雄山閣
市販本『万葉集ハンドブック』多田一臣編 三省堂

◆**成績評価基準** 発表80%、全体討論20%◆**備考** 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇哲学演習 MA（開講単位数:1 単位）

担当者:中澤 瞳

充当科目コード : P401S0（哲学演習Ⅰ）, P402S0（哲学演習Ⅱ）

※各自の履修状況により指定してください。

配 当 学 科 : 哲学専攻

配 当 学 年 : 3 学年以上

◆**授業概要** 哲学演習 MA は、卒業論文制作に向けての演習授業である。この演習は、「哲学」演習という名前ではあるが、「倫理学」や「宗教学」の分野での卒業論文執筆を考えている学生にとっても有益である。なぜなら、本演習を通して、学ぶ論文の形式や作成方法は、非常に基礎的なものだからである。したがって、「哲学」専攻の学生のための「演習」と考えていただければと思う。

◆**学修到達目標** この演習を通して、受講生は論文制作のための技術を学び、卒業論文の制作を進めていく。すでに卒業論文に着手している受講生の場合は、演習を通して、現在製作中の卒業論文を練り上げるのに役立てる。

◆**授業方法** この演習は、講義と実践を組み合わせで行う。

◆授業計画

	授 業 内 容	哲学演習 MA のねらい
1 回	事前学修	卒業論文でどのような題材を扱うか考える。
	事後学修	授業を復習し、卒業論文について理解を深める。また、授業の最後に提出した課題を検討する。
	授 業 内 容	論文とはどのような文章表現か
2 回	事前学修	論文にはどのような特徴があるか、他の文章表現とは何が違うか考える。
	事後学修	手近にある、論文以外の色々な文章を読んで、論文という形式について理解を深める。
	授 業 内 容	論文の構成
3 回	事前学修	前回の授業を復習し、論文の特徴を改めて把握する。
	事後学修	授業を復習し、自分の卒業論文で扱う予定の題材を元に、論文の構成をイメージする。
	授 業 内 容	問題と主張と論拠について
4 回	事前学修	前回の授業を復習し、論文の構成についての理解を深める。
	事後学修	自分の卒業論文の問題、主張、論拠を練り上げる。
	授 業 内 容	発表1 問題と主張と論拠を作る
5 回	事前学修	自分の卒業論文の問題、主張、論拠をどのようなものにするか考える。
	事後学修	相互評価を通じて、他の人の問題と主張と論拠を参照し、自分の問題、主張、論拠を練り上げる。
	授 業 内 容	先行研究を調べる
6 回	事前学修	文献を探すにはどのような方法があるか考える。
	事後学修	授業で取り上げた調査方法などを使用し、自分の卒業論文に必要な先行研究を調べる。
	授 業 内 容	説明を考える
7 回	事前学修	自分の意見を的確に相手に伝えるためには、どのような説明の仕方があるか考える。
	事後学修	説明の仕方に気をつけて、文章を書いたり、また他人の文章を読んだりする練習をする。
	授 業 内 容	アウトラインを作る
8 回	事前学修	第4回を振り返り、自分の卒業論文の問題、主張、論拠を確認する。
	事後学修	最終発表で、アウトラインの提出があるので、今回の授業を復習し、自分の卒業論文の問題、主張、論拠をもとに、アウトラインの内容を掘り下げる。
	授 業 内 容	体裁を整える
9 回	事前学修	注や参考文献表とはどのようなものか調べる。
	事後学修	授業を復習し、注や参考文献表を作成できるようにする。
	授 業 内 容	発表2 参考文献表の作成
10 回	事前学修	第6回を振り返り、自分の卒業論文に必要な先行研究を改めて調査する。
	事後学修	参考文献の書き方を覚え、いつでも作成できるようにする。
	授 業 内 容	パラグラフについて
11 回	事前学修	パラグラフとはなにか調べる。
	事後学修	文献を読むときには、パラグラフごとに読むこと意識し、また自分で文章を作成する際にも、パラグラフを意識して書けるようにする。
	授 業 内 容	要約を作る
12 回	事前学修	文章を短くすることと、要約との違いを考える。
	事後学修	第14回で要約の提出があるので、要約を作る練習をする。
	授 業 内 容	批判的な視点をもつ
13 回	事前学修	批判的な視点とはどのような視点なのか考える。
	事後学修	批判的な視点から読んだり、書いたりできるように練習する。
	授 業 内 容	発表3 パラグラフを意識しながら、要約を作る
14 回	事前学修	第11回、第12回を振り返り、パラグラフについての理解と要約の作り方を確認する。
	事後学修	相互評価を通じて、他の人の要約を参照し、わかりやすい要約とはどのような要約か考える。
	授 業 内 容	最終発表 アウトラインを作る
15 回	事前学修	第4回、第8回を振り返り、自分の問題、主張、論拠を確認し、またアウトラインの作成の仕方を確認する。
	事後学修	今回のアウトラインを土台として、卒業論文のアウトラインを深める。

◆**教科書** 特になし

◆参考書(参考文献等)

市販本 『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』 戸田山和久 NHK出版

市販本 『新版 論理トレーニング』野矢茂樹著 産業図書 2006年

市販本 『生命倫理のレポート・論文を書く』松原洋子・伊吹友秀編 東京大学出版会 2018年

◆**成績評価基準** 3回の発表と最終発表（相互評価が必要な場合はそれを含む）を中心に、受講状況、質疑応答内容などを加えて、総合的に評価する。

◆**備考** 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇日本史演習 MA（開講単位数:1単位）**担当者:鍋本 由徳**

充当科目コード: Q401S0（日本史演習Ⅰ）、Q402S0（日本史演習Ⅱ）

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科: 文理学部史学専攻のみ

配当学年: 3 学年以上

◆**授業概要** 本演習は、日本史、特に近世史史料を読むために必要な技術を身につけるとともに、卒業論文を執筆する上での基礎技術をあわせて学ぶためのものです。本演習で準備している『民間省要』は、享保改革に対する批判や提言の書、という性格をもつ。享保改革期をめぐるさまざまな問題について考えるとともに、調べ方や史料解釈についても実践する。

◆**学修到達目標** 1. 日本史の研究論文を書くための基礎技術を身につける。2. 史料読解力を養い、史料の使い方や評価の方法を身につける。3. 日本史史料を読む上で基礎知識を身につけ、積極的に学ぶ姿勢を身につける。

◆**授業方法** 時代背景や基礎知識を1～4章で学び、5章以後から演習形式となる。演習形式は各回で指示された課題を事前に作成し、ディスカッションボードや各章の討論ボードを使って議論する。基本的に『民間省要』を使うが、別途課題テキストを配布し、さまざまなタイプの史料を使った学修をおこなう。演習は「作業・質疑応答」によって実力を養うもので、各回での課題作業を欠かすことはできないため、日常的学修を心がけたい。

◆授業計画

	授業内容	はじめに 近世文書読解の基礎知識
1 回	事前学修	古文書・古記録を読む上での、「漢字仮名交じり文」などの特徴を調べる。
	事後学修	課題として提示予定の史料を読み、読み下しできるよう何度も読み返す。
	授業内容	『民間省要』と田中丘隅
2 回	事前学修	田中丘隅と『民間省要』について調べる。
	事後学修	自己点検で誤った箇所を重点的に再学修する。
	授業内容	元禄～享保期の社会
3 回	事前学修	貨幣経済の浸透にともなう社会変化について調べる。
	事後学修	自己点検で誤った箇所を重点的に再学修する。
	授業内容	教員によるテキスト読解 第一「地方のこと」
4 回	事前学修	事前に指示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	自身の読み下しと比較し、誤った箇所を重点的に復習する。
	授業内容	「検見」について / 参考文献と歴史史料の区分
5 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「年貢納入」について / 参考文献の種類と特徴
6 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「田地売買」について / 先行研究整理の意味
7 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「肥料や生産用具」について / 歴史資料の種類と調べ方基礎
8 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「検見の手順」について / 歴史資料を読んでみる(1) 領主政策
9 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「年貢早納・小物成」について / 歴史資料を読んでみる(2) 法令
10 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「定免制」について / 歴史資料を読んでみる(3) 領民生活
11 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「小作」について / 最終報告課題に向けての事前準備
12 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。

◆**教科書** 事前に必要な史資料を配付する。

◆**参考書(参考文献等)** 必要に応じてディスカッションボードで紹介する。

◆**成績評価基準** メディア授業受講状況（質疑応答、ディスカッション）50%，提出課題の評価50%。

◆**備考** 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。